

平成27年度 学校評価表

阿波中学校

項目	具体的努力目標	自己評価		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
① 豊かな心の育成	○人権教育 道徳教育の充実	○毎学期、大研をし授業研究会をもつことができ9割以上の生徒が人権学習や道徳の時間に真剣に取り組んでいる。○道徳の授業に多くの教師が関わり新しい取組ができた。○行事の練習や準備に多くの時間を取られ、道徳や人権、学級活動の時間があまりとれなかった。○授業はしっかりと受けているが日常生活に生かしていない面もある。また自尊心の低い生徒もいる。	B	○行事の精選と生徒に応じた計画を立てる。○行動化につながるように授業を工夫し、一人一人の生徒への親身な対応を心がける。	B	○「生命」を守る学びから実践へつなげる生徒の存在が確認できる部分は評価できる。今後も自尊感情を高める日常的な取組をお願いしたい。 ○いじめや不登校の問題は全国的な問題となっているが、やはり全教職員が子どもの豊かな心を育てる取組を続けていくことが重要ではないか。一例として偉人伝や先人の実話を生徒に伝える取組の必要性を感じるため、様々な資料を提供し触れる機会を増やしてほしい。 ○生徒の良さを見つけることや教師の一言(誉める・認める)、生徒と教師の関係作りの重要性。
	○生徒指導の充実	○ほとんどの生徒がルールを守り、あいさつや自分の役割をきちんと果たしている等、落ち着いた生活を送れている。○一部の生徒の中でケータイ(スマホ)を介したトラブルが発生した。○不登校生徒の対応の難しさ。	A	○定期的なスマホ研修の実施。○スクールカウンセラーの活用。○不登校生徒に対して連携して取り組む。	A	
	○学級活動 生徒会活動の充実	○生徒会が中心となり、様々な行事に積極的に取り組んでいる。	A	○生徒が主体的に取り組めるように促す。	A	
	○環境・ボランティア 教育の充実	○ほとんどの生徒が清掃に真面目に取り組んでいる。○一部、掃除の仕方が学べていない生徒がいる。	B	○掃除の仕方を説明するなど細かな指導が必要であるため教師の根気強い指導を続けていく。	A	
② 確かな学力の育成	○よくわかる 楽しい授業の実践	○8割以上の生徒が意欲的に授業に取り組めており、8割の生徒がわかりやすい授業であると肯定的である。○各学年で基礎基本の定着を図る取組ができた。○様々な教科でアクティブラーニングが実践できている。	B	○教科によっては習熟度別に分けて学習するののも一つの方法である。○学力向上のための教科部会の時間を確保する。○行事の精選をして授業時間の確保をする。	B	○先生方のきめ細かな指導のもと、音楽や作文など様々な分野で数々の成果を上げている。表現力がついている証拠ではないか。 ○本校の卒業生も様々な場面で活躍しており、学力だけでなく、中学時代に身につけた力が礎となっている。
	○表現力(コミュニケーション力)の育成	○班活動、朝夕の学活、1分間スピーチ、生活記録の充実など育成するチャンスを与え指導した。○各行事や教科の中で工夫して自己表現活動をしている。	B	○よりよい表現活動をするため事前指導を加え、成功の喜びや表現の楽しさを感じさせる。○生徒が互いに評価し合い、高め合う場をもたせる。	A	
	○キャリア教育の充実	○学年毎に発達段階に応じたキャリア教育ができています。(1年職業調べ・2年職場体験・3年高校体験入学)○特活・道徳・総合学習などすべての教育活動の中でキャリア教育が実践できている。	A	○1年次から将来を見通した学習を進めていく。○教師自身が「キャリア教育」ということばを使うことで、生徒にキャリア教育を意識づける。	A	
③ 健康・安全教育・食育の推進	○健康でたくましい 体力の育成	○部活動の参加率が高く、真面目に取り組んでいるが、生徒数が減少傾向にあるため、人数の確保が難しい。○夏休みの「健康力アップ30日作戦」の中で、自分で健康目標を立てることができた。その中で「運動する」「体力をつける」など目標に掲げて取り組み、6割の生徒が達成できた。○朝マラソン後の汗の処理ができていなかったり、着替えの用意が不十分な生徒がいるなど健康管理が課題となった。	A	○部活動のさらなる充実のためには、部活動の数などを検討する必要があるのではないかと。○規則正しい生活習慣を身につけ、自分の健康管理を自分でやるよう日頃からの指導に努めるとともに「健康力アップ30日作戦」を引き続き取り組んでいきたい。○朝マラソンの後の汗の処理ができていないので着替えの用意を徹底させる。	A	○成人病をはじめ、問題となる食生活を今後続けていくと、自分の人生に関わる重大な病につながることを具体的に伝えることが必要なのではないか。授業参観や家庭訪問等、様々な機会を通じて保護者の協力や保護者への指導も今後は必要となってくる。 ○通学路は生徒自身が気をつけていても危険な道路が多く、自動車運転者のマナーが悪かったり、スピード違反があったりするため命に関わる事故の発生を心配する。啓発活動の重要性。
	○安全教育の充実	○「交通マナーが守られているか」という項目では9割以上の生徒が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答している。○機会を捉えては交通安全・生命の大切さについて伝えることができた。	A	○学校の登下校だけでなく、休日等、どの場面においても生徒に危機管理や安全への意識を持たせるような声かけや指導を継続する。○交通委員会などで安全マップを作ると生徒の安全意識が高まるのではないかと。	A	
	○食育の充実	○給食の量は少ないと感じる生徒もいるのではないかと。一方で残食も多く野菜を残す生徒もいる。○朝食の重要性や食べて来ようとする意識が高まった一方で、体調不良を訴える生徒の中には朝食欠食の生徒が目立つ。	B	○給食での野菜の残食が目立つため、感謝する心や生活習慣予防の視点も踏まえ指導を行う。○朝食の重要性など引き続き細かな指導を計画的に行い、家庭へも働きかける。	B	
④ 教育の特別支援	○特別支援教育への理解と推進	○生徒の実態やニーズを把握し、それに合った個別の指導計画を立てて実践できた。○生徒は特別支援学級の生徒とともに学習できている。	A	○支援学級の生徒の自立活動面の指導を充実させ、交流学級での対人関係のサポートをする。○将来を見据えた適切な進路指導をする。	A	○特別支援学級の生徒が高校入学時に中高の連絡や情報交換、入学後のサポート等、継続的な支援が必要である。
⑤ 研修の充実	○校内研修の工夫 改善と計画的な実施	○例年よりも多くの研修をもち、内容・方法を工夫し充実した研修ができた。○「班で話し合い、情報を共有して、全体で発表」という流れで教員の共通理解に役立てることができた。	A	○学力向上とも関連して、各教科部会で研修を行う。○月ごとに研修計画を立案し、日程や内容について精選する。	A	○大研等、計画的な研修の積み重ねをされていることがよくわかる。生徒が常に落ち着いた学習に取り組んでいるのは、日頃の教職員の資質向上に向けた姿勢が大きく影響しているのではないかと。
	○OJTの充実	○日頃の業務の中でお互いに支え合い、生徒の情報交換ができる体制が構築できている。○中堅リーダーを中心に人材育成に努めている。	A	○授業公開や事例研修など実践に役立つ研修や指導システムを確立する。	A	
⑥ 開かれた学校教育の推進	○家庭・地域社会 関係機関との連携	○六稜祭や合唱コンクールには保護者が積極的に参加している。○吹奏楽部や美術部は地域の文化的行事に大いに貢献している。○学校からの発信は確実に行えている。	B	○ホームページを活用し、生徒の活動状況や学校行事について逐一更新する。○緊急メール等、学校から情報が確実に家庭に伝わるように常に配慮し、情報発信に努める。	A	○吹奏楽部や美術部の活動は、生徒の感性を高めるすばらしい取組である。 ○緊急メールが定着し、ほとんどの保護者が登録し活用できている。昨今の多発する凶悪犯罪や自然災害の発生状況を鑑みると絶対に必要なものである。
	○学校評価の充実	○学校評価の研修に積極的に取り組み、現状把握に役立て、次年度への課題改善について話し合えた。	A	○課題や改善点を記録して残せるような評価の連続性を持たせる。○具体的解決法を話し合い、次年度につなげる。	A	